

みどり  
**水土里ネット富山だより**

(富山の土地改良情報)

2019  
 第575号

1月1日発行

**謹賀新年**



舟子川用水発電所(黒部市浦山)

- |               |                |                |                |                |              |               |           |           |        |              |                |           |               |         |
|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|--------------|---------------|-----------|-----------|--------|--------------|----------------|-----------|---------------|---------|
| 監事            | 監事             | 代表監事           | 理事             | 理事             | 理事           | 理事            | 理事        | 理事        | 理事     | 理事           | 専務理事           | 副会長       | 会長            |         |
| (魚津市土地改良区理事長) | (小矢部市土地改良区理事長) | (庄西用水土地改良区理事長) | (射水平野土地改良区理事長) | (常東用水土地改良区理事長) | (入善土地改良区理事長) | (高岡市土地改良区理事長) | (高岡市議会議長) | (大井正樹)    | (夏野修)  | (岩田忠正)       | (中川忠昭)         | (永森雅之)    | (鹿熊正一)        | (堂故茂)   |
| (他職員一同)       | (小矢部市長)        | (射水市長)         | (富山県議会議長)      | (富山県議会議員)      | (富山県議会議員)    | (高岡市議会議員)     | (高岡市議会議員) | (高岡市議会議員) | (砺波市長) | (城端土地改良区理事長) | (常西用水土地改良区理事長) | (富山県議会議員) | (朝日町土地改良区理事長) | (参議院議員) |



**水土里ネット富山**

(富山県土地改良事業団体連合会)



# CONTENTS

## 1 新年のご挨拶

富山県土地改良事業団体連合会長	堂故 茂	1
全国水土里ネット会長	二階 俊博	2
全国水土里ネット会長会議顧問 参議院議員	進藤 金日子	3
全国水土里ネット会長会議顧問	宮崎 まさお	4
富山県知事	石井 隆一	5
富山県議会議長	高野 行雄	6
北陸農政局長	奥田 透	7
富山県農林水産部長	芝田 聡	8
富山県農林水産部 農村整備課長	南 理	9
富山県農林水産部 農村振興課長	宮田 義人	10
2 本会設立60周年記念式典の開催		11
3 第12回「元気とやま」むらづくり推進大会の開催		11
4 「平成30年 とやま水土里フォーラム」の開催		12
5 「土地改良区新任理事研修会」の開催		13
6 土地改良の次世代を担う青壮年研修会		14
7 とやま水土里ネット女性の会 総会ならびに研修会の開催		14
8 第41回全国土地改良大会（宮城大会）		15
9 北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 農業農村整備事業に関する要請		16
10 平成30年度富山県建設優良工事（土地改良部門）の表彰		17
11 平成30年度北陸ブロック土地改良区体制強化事業 新規担当者研修		18
12 平成30年度換地関係異議紛争処理実務研修会（北陸ブロック）		19
13 土地改良区の基盤強化を目指す各種研修会の開催		19
①平成30年度富山県換地センター換地計画実務研修会		19
②富山県構造改革推進ほ場整備研究会 先進地研修		20
14 式典 発電所の完成式・発電開始式		20
中滝発電所、舟子川用水発電所		20
15 <情報>富山県農業用水小水力利用推進協議会		21
16 <情報>富山県多面的機能推進協議会		22
17 <情報>非補助農業基盤整備資金のご案内		23
18 <お知らせ>今後の主な行事予定		23



## 新年に当たって

富山県土地改良事業団体連合会  
会 長 堂 故 茂

新年明けましておめでとうございます。輝かしい平成31年の初春を迎え、会員ならびに関係皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃から農業農村整備の推進にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は地震や台風、豪雨によるため池の決壊など多くの自然災害が発生いたしました。被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。

ついでに、国では昨年の度重なる災害の発生により、農地・農業用施設を含めインフラ施設が甚大な被害を受けたことから、速やかな復旧復興を進めるとともに災害に強くしなやかな国の実現を目指すことになりました。そのため、防災減災・国土強靱化のための予算として3年間で4兆円規模の財政支出を予定されており、農業農村整備事業にもその配分が措置されています。

予算全体としては、平成30年度補正予算、平成31年度当初予算及び臨時・特別の措置を合わせて、大幅削減前の予算を超える6,451億円が確保されました。これも我々関係者が一致団結して活動した成果のひとつであると思っております。

他方、制度の面では、2年連続で土地改良法の改正が行われ、今回の改正では、土地改良区の体制の強化について環境の整備が行われたと考えております。少子高齢化の大きな波を迎え、農村の居住者の構成が急速に変化している現在、土地改良区が貴重な地域資源である農地、土地改良施設を守り、適切に管理し、次世代に引き継いでいくことが最も重要なことだと思っております。役員の選出方法や会計方式の変更に不安の声もありますが、県土連では農林水産省及び県と協力し、不安を払拭するべく万全を期して参ります。

また、農林業の成長産業化を図っていくためには、担い手への農地の集積・集約を進めるとともに生産コストの削減を図ることも必要であります。最も重要なことは中山間地域においては、生産性だけを追求するのではなく、生活圏として人が住み安心して農林業を営んでいける環境づくりを地域振興策として行なっていくことが極めて重要なことだと考えております。いずれにしても「農業は国の基」であり、豊かな国土や自然環境も農業農村が健全であって初めて維持されるものであり、意欲ある農業者がこれからも安心して農業に取り組める農政を行なうべきであり、そのためには、政治の安定が特に重要なことだと考えております。

関係皆様には一層のご支援とご協力をお願いいたしますとともに、新元号元年となる本年が皆様にとりまして希望に満ちた明るい年となりますように心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 新年に当たって

みどり  
全国水土里ネット  
会長 二階 俊博

平成31年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年もまた、我が国は非常に多くの災害に見舞われました。6月には大阪北部地震が、6月下旬から7月上旬にかけては、西日本を中心に、北海道や中部地方など全国的に広い範囲で台風7号および梅雨前線等の影響による集中豪雨が、9月には北海道胆振東部地震が、また、7月から9月にかけては5度に及び台風が我が国に上陸し、多大な被害をもたらしました。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧が出来ますよう、私どもとしても一体となって全力を尽くしたいと思っております。

さて、私は会長に就任以来、民主党政権時代に7割近く削減された状況であった予算をまずは復活させようと、「闘う土地改良」の重要性を訴え、予算獲得に向け本気になって取り組んで参りました。全国の皆様の大きな力によって、平成31年度当初予算は、重要インフラの緊急点検等を踏まえた防災・減災、国土強靱化のための緊急対策546億円を含めて4,963億円、平成30年度の第2次補正予算1,488億円を合わせると、6,451億円となりました。ひとえに皆様方のご尽力の賜であると、心から感謝致します。

また、土地改良の代表を再び国会へ送り込むとの強い決意のもと、私たちの代表として当選された進藤かねひこ参議院議員も全国を飛び回り、元気に頑張っており、その評価は極めて高いものがあります。今後は、進藤さんの活動と連携して、更に一層「闘う土地改良」の浸透が図られるよう念じております。更には、進藤議員と車の両輪たらしめる宮崎まさお氏も、来たるべき闘いに向けて、全国の皆様の所へ伺っているところであります。

今、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

このような状況の中、昨年の通常国会では改正土地改良法が成立し、土地改良にとって、2年続けて改正された新しい土地改良法を基軸に、新たな展開を図る大きな節目の年となります。

私たち土地改良担当者としては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思っております。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。



## 新年を迎えて

全国水土里ネット会長会議顧問  
参議院議員 進藤 金日子

新年明けましておめでとうございます。昨年は、自然災害が頻発した年でした。被災された全ての方々に心からお見舞い申し上げます。平成最後の年となる今年も、「平成」の由来の如く「地平天成」（地平らかにして天なる：国の内外、天地とも平和が達成される）の年になることを強く願いたいと思います。

さて、昨年末に平成30年度第2次補正予算と平成31年度当初予算の政府原案が閣議決定されました。土地改良予算としては、総額で6,451億円（30年度補正：1,488億円、31年度当初：4,963億円）を確保することができました。これもひとえに、農業改革の推進に不可欠な土地改良の実施に向けた現場からの強い要請と関係者の皆様の熱意を、政府と与党にしっかりと受け止めていただいた結果です。予算は、人任せでは確保できない、自ら汗をかき実働して確保する、まさに「闘う土地改良」の成果であると言えます。この貴重な予算が一日も早く現場に届くよう、今次通常国会で早期成立に向けて努力してまいります。

今回の予算の特徴は、何と言っても「国土強靱化」に重点が置かれたことです。重要インフラの緊急点検等を踏まえた「防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策」として補正と当初を合わせて1,091億円計上され、制度的にも防災重点ため池整備等で大幅な拡充がなされました。また、ここ2回にわたる土地改良法の大改正を踏まえ、土地改良区の複式簿記の義務化等に対応した土地改良区体制強化事業が整備されるなど、現場の声に即した具体的な対応策も示されました。農業競争力強化関係でも現場の実態に即した要件設定やハードとソフトの連携強化策などが盛り込まれています。今回の予算は、土地改良の原点である現場重視の視点が更に強化されたものとなっています。この貴重な予算を効率的、効果的に執行し、土地改良に対する国民の皆様の期待に応えていくことが重要です。

富山県においても、農業水利施設の長寿命化対策及び水管理のICT化、さらには農地と県民生活の安全を守る防災減災対策など、取り組むべき課題は山積しております。これらの課題の大きさと重さにややもすると伏し目がちになりますが、是非とも頭を上げ、目を見開き、微笑みを絶やさず前に進みましょう。どんな困難も一人でなく皆で立ち向かいましょう。

皆様、ご案内のとおり私の同志である宮崎雅夫（まさお）さん（全国水土里ネット会長会議顧問）も「土地改良は未来への礎」を訴えて全国各地を精力的に巡回しています。宮崎さんと私が皆様と連携して「闘う土地改良」を共闘できるようにご指導とご支援を心からお願い申し上げます。

本年も引き続き皆様と一緒にあって諸課題の解決に向けて専心努力してまいる覚悟です。本年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。



## 「闘う土地改良」－未来への礎を築くために

全国水土里ネット会長会議  
顧問 宮崎 まさお

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

私は昨年1月に全国水土里ネット会長会議顧問を仰せつかり、この一年間、全国各地で地域の実情や意見をつぶさに拝聴させていただきました。これまでの移動距離は地球5周分の20万kmになりました。

昨年は、西日本豪雨や北海道胆振東部地震をはじめとする地震、台風、さらには噴火など、全国各地で自然災害が相次ぎました。被災された方々にお見舞いを申し上げるとともに、被災地の一日も早い復旧・復興を願ってやみません。また、被災地の状況をお聞きするたびに、防災・減災対策は一刻の猶予も許されないとの思いを強くしています。

土地改良は、先人が創り上げてきた農地やかんがい排水施設などをそれぞれの時代にに応じて整備を行い、次の世代に引き継いでいくシステムです。つまり、土地改良は、現在の農業の発展はもとより、日本の「未来への礎」を築くものであると考えています。

私は、現場でお聞きした様々な課題を解決し、日本のすばらしい農山漁村を「未来への礎」として、子どもや孫たちに引き継いでいくため、「大切な農地と水を守る」「農山漁村を災害から守る」「美しい農山漁村を守る」という3つの目標のもと、これを実現するため、土地改良の安定的な予算確保や災害に強い農山漁村づくりなど、7つのチャレンジに全力で取り組んでいく考えです。

そして、現場と国政の間を、私の好きなテニスのボールのように素早く往復し、現場の声を施策に反映していきたいと考えています。

今年は天皇陛下が御退位され、元号が変わる大きな節目の年です。新しい時代の始まりの年でもあり、土地改良にとっても大きく羽ばたく年にしなければなりません。皆様の土地改良に対する熱い思いと大きな力を、私、宮崎まさおに賜りますようお願いいたします。

むすびに、本年が皆様にとって実り多き年となりますように祈念いたしまして、私の新年のご挨拶といたします。

### 宮崎まさお7つのチャレンジ

1. 土地改良の安定的な予算確保にチャレンジ
2. 災害に強い農山漁村づくりにチャレンジ
3. 農地や水を守り育てる体制の強化にチャレンジ
4. 自然豊かな美しい農山漁村の継承にチャレンジ
5. 世界に日本の農林水産業と農山漁村のすばらしさの発信にチャレンジ
6. 女性の視点を大切にした農山漁村政策の展開にチャレンジ
7. 農林水産業と農山漁村への国民の理解づくりにチャレンジ



## 人が輝く「元気とやま」の創造をめざして

富山県知事 石 井 隆 一

明けましておめでとうございます。平成31年の初春を県民の皆様とともに寿ぎたいと存じます。平成16年11月の知事就任以来、多くの県民の皆様のご支援とご支持をいただきながら、ふるさと富山県の発展と県民の皆様幸せのために邁進してまいりました。

私の変わらぬ目標は、県民の皆様一人ひとりが夢と希望を持って、いきいきと働き暮らせる「元気な富山県」を創ることです。このため、タウンミーティングなどを通して幅広い県民の皆様のご意見をお聴きしながら、「活力」「未来」「安心」の三つの基本政策と、これらを支える「人づくり」に関する重要政策の推進に積極的に取り組んでいるところです。

昨年は、60年来の懸案だった「黒部ルート」の一般開放・旅行商品化について2024年度から実現することで関西電力と合意に至りました。また、地方大学・地域産業創生事業の対象として本県の「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムが全国七件のうちの一つに採択されたほか、富山米新品種「富富富」の全国販売も開始されるなど、本県の新たな飛躍に向け、注目度が一段と高まっています。

間もなく開業から四年を迎える北陸新幹線の乗車人員は、開業前の三倍近い水準が続き、観光客の増加、企業立地の進展、Uターン率の向上、本県への移住者の増加など様々な効果が現れています。

また、本県の強みを活かした最先端ものづくりの強化、農林水産業や観光の振興、移住・定住の促進など、産業経済や地域の活性化を図り、本県を大きく飛躍させる取組みが広がっています。さらに、社会全体で子育てを支援する体制が整備されるとともに、教育・文化・スポーツの振興等を通して、真の人間力を育む教育が展開されています。

安心して暮らせる地域づくりについては、医療・福祉の充実や健康寿命日本一に向けた取組みの推進、環境の保全、防災対策の拡充等が着実に図られています。

そして、経済・産業、教育・文化、医療・福祉などの幅広い分野における人材育成を図り、夢・情熱・志を持って、富山県の新たな未来を切り拓く「人づくり」が進展しています。

今後とも、さらなる成長・飛躍を目指し、北陸新幹線の開業と国の地方創生戦略の二つの追い風を最大限に活かしながら、「とやま新時代」にふさわしい、活力と魅力あふれるふるさとへの創生に向けた取組みをさらに加速すべく、昨年三月に策定した新総合計画に基づき、県民の皆様のご知恵と力を結集して、人が輝く「元気とやま」の創造に全力を尽くしてまいります。

新年にあたり、県民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝、ご多幸を心からお祈り申しあげまして、新年のごあいさつといたします。



## 新年を迎えて

富山県議会議長 高野行雄

新年明けましておめでとうございます。

輝かしい平成31年の新春を、皆さまとともに寿ぎたいと存じます。

皆さまには、日頃から本県の農業・農村整備に多大なご尽力をいただき、深く感謝を申し上げます。

さて、我が国の社会経済環境は、少子高齢化の進行と人口減少時代の到来、グローバル化の一層の進展や環境・エネルギー問題、テロ・事件、災害による社会不安の顕在化など大きく変化しております。昨年は、米中貿易摩擦の激化で国際情勢が緊迫化する一方、国内では、昭和38年の豪雪に匹敵する大雪、北海道胆振東部地震をはじめとする土砂災害や豪雨による災害など激動の一年でありました。

また、農業・農村を取り巻く環境は、担い手の高齢化や後継者不足、農産物価格の低迷や産地間競争の激化、さらに、昨年末のTPP11の発効など国際貿易交渉の進展等もあり、大きな転換期を迎えています。

こうしたことから県では、本県の実情に即した政策が構築されるよう国に働きかけるとともに、昨年秋に本格デビューした富山米新品種「<sup>ふ</sup>富<sup>ふ</sup>富<sup>ふ</sup>」の生産拡大や効果的なPRの推進等による富山米のブランド力向上、県産農産物等の国内外への販路拡大、担い手への農地集積、園芸生産の拡大等による所得向上、ICT等を活用したスマート農業の推進や農地の大区画化・汎用化等の農業生産の基盤づくりなどに積極的に取り組むこととしております。

県議会といたしましても、県政運営の両輪の一つとして、必要な公共事業予算の確保や安心して農林水産業を営める環境づくり等への積極的な支援などにより、本県農業・農村がより元気になるよう全力を尽くしてまいり所存であります。

皆さまにおかれましても優れたノウハウや技術力を活かし、個性豊かな魅力ある農業・農村づくりに向けて、一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆さまにとって希望に満ちた幸多い年でありますようお願い申し上げまして、新年のご挨拶といたします。





## 年 頭 挨拶

北陸農政局長 奥 田 透

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より農林水産行政の推進にご理解、ご協力を賜り、とりわけ農業農村整備事業の推進にご尽力をいただいていることに厚く御礼申し上げます。

昨年は、北陸のみならず全国各地で大規模な自然災害が発生しました。災害に見舞われた方々に心からお見舞い申し上げます。

さて、ご承知のとおり、北陸地域では、耕地面積の9割を水田が占めており、水稻を中心とした農業経営が盛んに行われてきました。しかしながら、日本の総人口や一人当たりの米の消費量は減少局面にあり、米に対する需要の低下が今後とも見込まれています。

富山県では、新品種「富富富」が本格デビューを果たし、今後、市場における流通の拡大が期待される場所ではありますが、農家の所得の維持・向上を図るためには、需要に応じた米の生産・販売に加え、たまねぎを含む高収益作物の導入、複合経営への転換などを目指す必要があります。このためには、農地の汎用化や畑地かんがい施設の整備を行う農業農村整備事業の推進が引き続き重要であると考えております。

更に、平成30年6月に閣議決定された「未来投資戦略2018」において「スマート農林水産業の実現」が位置づけられました。「スマート農業」とは、農業のあらゆる現場において、ICT機器を幅広く導入し、栽培管理等をセンサーデータやビッグデータ解析から最適化することにより、熟練者の作業ノウハウをAIにより形式知化したり、実作業をロボット技術等で無人化・省力化することです。

富山県においても、チューリップ球根の植込収穫作業用ロボットの小型軽量化に向けた研究開発に取り組んでいると承知しております。

これを受け、自動走行農機等の導入・利用に対応した土地改良事業の推進、農業用水利用の効率化に向けたICT技術の活用も推進していくこととしています。

土地改良区においては、このような農業・農村構造の大きな変化に適切に対応できる仕組みや体制を整えていく必要があります。このため、昨年は農地中間管理機構との一体事業、非申請・農家負担なしの耐震化や突発事故対策の事業などを創設し、昨年は土地改良区の業務運営の適正化を図るべく、組合員資格の見直しや貸借対照表の作成の義務化などを内容とする土地改良法の改正が行われました。

これらはいずれも、農地の集積に伴い、農村における担い手と土地持ち非農家との連携が課題となる中で、基盤整備や施設の保全管理を将来に向けて持続可能なものとしていくための措置であります。

北陸農政局としましても、土地改良区の体制強化を含め農業農村整備事業等の地域施策を推進し、素晴らしい北陸の農業・農村を次の世代に引き継ぐことにより、豊かな食生活とそれを支える地域社会を維持していきたいと考えております。

結びに当たり、本年も引き続き農政の推進についてご理解とご協力をお願いするとともに、富山県土地改良事業団体連合会の皆様にとって実り多い年となりますことをご祈念申し上げ、年頭の挨拶と致します。



## 新年のごあいさつ

富山県農林水産部長 芝 田 聡

明けましておめでとうございます。

輝かしい初春を迎え、富山県土地改良事業団体連合会、土地改良区等の皆様方に謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

日頃から本県の農業農村整備をはじめ、農政の推進に格別のご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、農業農村を巡る情勢は、産地間競争の激化、後継者不足などに加えて、国の米政策の見直しや昨年末のTPP11の発効など、大きな課題に直面しています。このように厳しい状況の中ではありますが、農業は県民の「いのち」と「くらし」を支える生命産業であり、幅広い施策を展開していくことで、競争力の高い農業と豊かで美しい農村を実現し、次の世代へしっかりと継承していくことが重要であると考えております。

このため、県では、農業経営の安定化と収益力の向上に向け、農地を大区画化し、担い手への集積・集約化を加速させることにより、米の生産コストを大幅に低減するとともに、昨年本格デビューした「富富富」の生産拡大や効果的なPRの推進等による富山米のブランド力向上や「とやま農業未来カレッジ」等による新規就農者の育成・確保に取り組んでおります。また、農地の汎用化とともに農業機械や施設の整備を進め、園芸の1億円産地づくりをより一層加速化することとしております。

さらに、今年4月には、組合員資格や財務会計制度など「土地改良区の在り方」の見直しを内容とする改正土地改良法が施行されます。県におきましては、法改正後の具体的な制度運用について情報収集に努めるとともに、本県の実情を踏まえた運用となるよう、国と調整を図るなど、法施行のための準備を進めてまいります。

こうした施策を進める中で、地元から要望の強い土地改良予算については、平成22年に国の土地改良予算が大幅に削減されましたが、そのような中であっても、県では、農水省や北陸農政局と相談し、毎年、予算確保に懸命に取り組んでまいりました。昨年度の国のTPP等対策を受けた2月補正予算並びに今年度の当初予算及び9月補正予算において、昨年度同期と比較して101%の159.7億円を確保し、一層強力に事業を推進しております。今後とも、国事業の積極的な活用を図りながら、様々な工夫により、必要な事業制度の充実や予算の確保に努めてまいります。

本県の基幹産業である農業が守られ、意欲ある農業者が夢と希望を持ち安心して営農に取り組めるよう、県としても、職員一同、心を一つにベストを尽くして参りますので、会員各位におかれましても、引き続き、本県農政の推進に、より一層のご尽力をいただきますとともに、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、土地改良関係団体の限りないご発展と皆様方のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。



## 新年のご挨拶

富山県農林水産部  
農村整備課長 南 理

平成31年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

皆様方には、H頃から本県の農業農村の振興、及び土地改良事業の推進に格別のご理解とご協力を賜り心からお礼を申し上げます。

昨年は、昭和33年に富山県土地改良事業団体連合会が創設されてから60周年の節目の年で、7月には、国会議員の先生方をはじめ県内外から多くの皆様をお迎えになり、記念式典が開催されました。この長き年月において諸先輩方が農業用水の合口化、幹線用排水路の整備、ほ場整備などに携われ、現在の豊かさの礎になっていることを改めて認識し、土地改良事業関係者の皆様のご熱意とご尽力に敬意と感謝の念を強く抱いたところでございます。

さて、我が国の農業は、産地間競争の激化、後継者不足、昨年末のTPP11の発効などの課題に直面しています。また、土地改良事業においても、昨年、土地改良法の改正がなされるなど、農政の大きな転換期を迎えております。

こうしたなか、県では、昨年3月策定の「新総合計画」を踏まえ、5月に本県農政の新たな基本指針となる「富山県農業・農村振興計画」を策定し、農業の生産コスト低減や高収益作物への転換を促進して体質強化を図るため、農地の大区画化・汎用化等の農業生産基盤の整備・保全を積極的に推進するとともに、水管理のICT化やロボット農機が走行できる農業基盤インフラの在り方についても前に進めていくこととしております。また、「富山県国土強靱化地域計画」を踏まえ、農山村の防災・減災対策、土地改良施設の長寿命化対策、地すべり対策など、災害に強く強靱な県土づくりの推進などを着実に行ってまいります。

県としては、今後とも、本県農業農村が発展できるよう、引き続き土地改良事業への支援を力強く行うとともに、新しい元号となる節目の年でもあり、皆様方とともに、新たな時代への幕開けにふさわしい取組みを果敢に進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

おわりに、富山県の農業と農村のために、一層のご支援、ご協力を賜りますとともに、皆様のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさついたします。



## 新年のご挨拶

富山県農林水産部  
農村振興課長 宮田 義人

平成から新元号へと新しき時代の幕開けとなる年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆様方には、日頃から本県の農業・農村の振興に格別のご尽力とご理解、ご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

昨年は、地震や集中豪雨、台風、そして災害級の猛暑などによる被害が全国各地から伝えられ、自然のもつ圧倒的な影響力の前では、人のなすことがいかに小さいかを再認識させられることが多かった年となりました。先人の方々は、こうした災難をいくたびも乗り越えて、今日の農業・農村の基礎となる土地改良に情熱を持って取り組んでこられたことを思うと、その努めを引き継いでいる私たち土地改良関係者は、今後いつ大きな災難にあおうと、くじけずに農家の皆さん、そして地域の皆さんの生活が一日も早く、安全で安心に暮らせるようになるための努力を惜しまぬ覚悟を持つことが大切と感じているところです。

こうした災害が各地に拡大している理由の一つとしては、中山間地域の農村の活力低下があげられると思います。中山間地域では、平野部にまして人口減少と高齢化が進んでおり、農林業の担い手不足による耕作地の減少や里山林等の手入れが不十分となって、降雨を保水する能力が次第に失われる等、その影響が下流域の平野部にまで達するようになってきていると思われま

す。昨年、県内すべての中山間地域の集落の代表者の皆さんに対して、どういった課題や問題点を感じておられて、今後地域の活性化のために効果的な取組は何か、といった実態調査が行われたところです。その結果、複数の集落を含んだ生活圏で地域運営の仕組みをつくること、若者等の移住を進めること、地域資源の活用と地域外からの人材・仕事の取り込み等により地域経済を活性化すること、医療・介護・交通・食品流通など日常生活を維持する上でのサービスを確保すること等があげられています。将来への不安はあるものの、調査結果から導き出された中山間地域の将来像は、人口減少下においても持続できる社会を形成し、次世代に引き継いでゆくことでした。

県としましては、こうした中山間地域の将来像の実現に向けて地域の皆さんとともに知恵を絞ってゆく所存です。どうか皆様方におかれても、農業・農村のもつ多面的機能が長く発揮され続けるとともに、今後とも富山県の発展と県民の皆様の安全・安心、幸せのために、一層のご支援、ご協力をいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

終わりに、土地改良関係団体のご発展と、皆様方の今後ますますのご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

## 本会設立60周年記念式典の開催

平成30年7月22日、富山市内「ホテルグランテラス富山」において、本会（堂故 茂会長）の設立60周年記念式典が関係者約170名の出席のもと開催されました。式典には石井隆一富山県知事をはじめ、宮腰光寛衆議院議員、橘慶一郎衆議院議員ほか国会議員代理の方々、北陸農政局から印藤久喜局長ほか幹部の方々、富山県議会から高野行雄議長、瘧師富士夫農林水産委員長、また、全国水土里ネットから小林祐一専務理事、宮崎雅夫会長会議顧問、また、富山県農林水産部の現役幹部の方々並びにOBの方々ほか多数ご臨席されました。

堂故会長は挨拶で、全国に先駆けてほ場整備

事業を進め、産業を発展させてきた富山県の歴史を紹介され「先人の労苦を忘れず、農業の体質強化に向けて先頭に立って取り組む」と述べられました。次に石井富山県知事、宮腰衆議院議員、橘衆議院議員、印藤北陸農政局長、高野富山県議会議長、全国水土里ネットの小林専務理事からそれぞれお祝いのことばを頂きました。

感謝状贈呈式では、平成29年9月に急逝されるまで12年余りにわたり、本会の会長として、業務運営並びに本県の土地改良事業の推進と発展にご尽力を賜りました前会長、河合常則様に堂故会長より感謝状が贈られ、奥様の朋子様とご長男の常晴様が受け取られました。



## 第12回「元気とやま」むらづくり推進大会の開催

平成30年7月17日に富山県民会館ホールにて、富山県主催による第12回「元気とやま」むらづくり推進大会が開催され、農業及び土地改良関係者等約1,000人が出席しました。富山県では農業・農村の振興と多面的機能の発揮を図るため、多面的機能支払制度、中山間地域等直接支払制度、耕作放棄地対策や都市農山漁村交流を推進しており、これらの取り組みの必要性や成果を県民の皆さんに広くお知らせするとともに、活動指導者の情報交換等を図るために開催されたものです。

石井隆一知事の挨拶のあと、来賓として印藤久喜北陸農政局長、高野行雄県議会議長、堂故茂富山県土地改良事業団体連合会長（代理永森専務理事）の挨拶があり、引き続き今年度「農村振興・環境保全優良活動コンクール知事賞」の受賞6団体に知事から賞状が贈られました。

続いて「住民参加と交流で育む富山の農村風

景」と題し、富山大学芸術文化学部准教授の奥敬一氏から基調講演がありました。

次に、事例発表として受賞6団体から活動内容について発表があり、最後に「元気とやまむらづくり」に向けて総力を挙げて取り組むとの大会宣言がされました。

また、1階のロビーではパネル展示や、県内14団体の特産品等の販売コーナーが設けられ、一日市場として賑わいました。

優良活動受賞団体は、次の6団体です。

- ◇島環境保全委員会（入善町）
- ◇古岡地区活動組織（富山市）
- ◇反保島集落環境保全推進協議会（高岡市）
- ◇五郎丸集落資源保全隊（小矢部市）
- ◇原野地区集落（砺波市）
- ◇細野集落（南砺市）



## 「平成30年 とやま水土里フォーラム」の開催

平成30年10月10日、南砺市井波総合文化センターにおいて富山県と富山県土地改良事業団体連合会との主催による「平成30年とやま水土里フォーラム」が開催され、土地改良関係者、県・市町村等 約580人が参加しました。

主催者を代表して、石井隆一知事、堂故茂県土連会長から開会の挨拶があり、続いて来賓の奥田透北陸農政局長、高野行雄県議会議長の祝辞がありました。



次に県知事表彰があり、土地改良施設の維持管理や、多面的機能の発揮のための活動に取り組む、他の模範となる団体および個人に対して「とやま水土里賞」が石井知事から授与されました。



受賞されたのは、次の1団体と3個人の方々です。おめでとうございます。

- ・打尾谷ため池管理委員会(南砺市)
- ・室 正道 氏(入善町)
- ・大場 忠夫 氏(富山市)
- ・土田 光秋 氏(南砺市)

つづいて、とやま水十里賞の団体受賞者である、打尾谷ため池管理委員会から事例発表が行われました。次に基調講演に入り、農業ジャーナリストでフリーアナウンサーの小谷あゆみ氏から「地域の宝を活かし明るく元気な農村へ」と題し講演していただき、午前の部を終了しました。



一方、会場内ホワイエでは砺波管内の農産加工グループ等による展示・販売と各種団体等による展示ブース・パネル展示があり、大勢の来場者で賑わいました。

午後からは、現地研修で小水力発電施設「新明発電所」、砺波市出町子供歌舞伎曳山会館、岸渡洪水調整池(国営総合農地防災事業庄川左岸地区)、J Aとなみ野「たまねぎ集出荷施設」の4施設の見学を行い、全日程を終了しました。



## 「土地改良区新任理事研修会」の開催

平成30年8月7日、富山県民会館において土地改良区新任理事研修会を開催し、土地改良区役員等約100名が参加されました。この研修会は土地改良区の運営基盤強化の一環として、特に

1期の新任理事の方々に土地改良区に期待される社会的役割とそれに対応する土地改良区理事の責務について認識していただくことを目的としており、下記の内容にて研修を行いました。

- ・理事の役割と責任及び土地改良区に期待される役割について  
富山県土地改良事業団体連合会 総務部次長 紫藤 陽一 氏
- ・土地改良事業とは  
富山県農林水産部農村整備課 主幹 山森 主税 氏



会場の様子



富山県農村整備課山森主幹

## 土地改良の次世代を担う青壮年研修会

平成30年8月23日、富山県民会館において「土地改良の次世代を担う青壮年研修会」が開催され、県内土地改良区及び県土連の青壮年職員など52名が参加しました。挨拶の後、「農業農村整備の展開方向、農村振興への貢献と土地改良区への期待について」と題して、県農林水産部農村振興課中山間農業振興班長の川島秀樹氏が

ら講演をしていただき、そのあと4グループに分かれてグループディスカッションを行いました。富山県内の土地改良関係に従事する青壮年職員を対象に、研修会や情報交換等を通じて技術研鑽や資質向上、交流の促進を図り、より良い土地改良区運営に貢献していきたいと考えています。



## とやま水土里ネット女性の会総会ならびに研修会の開催

平成30年11月30日、富山県民会館において「とやま水土里ネット女性の会 総会ならびに研修会」が開催され、土地改良区の女性職員約60名が参加しました。

総会後に行われた研修会では、土地改良法改

正について意見交換が行われ、「複式簿記会計導入」や「法改正に伴う定款・規約・規程の整備と実施時期」について等、実務を担う女性の活発な意見交換が行われました。





## 第41回全国土地改良大会(宮城大会)

平成30年10月16日(火)、宮城県総合運動公園(グランディ21)において、第41回全国土地改良大会宮城大会が『先人の意志を受け継ぐ「伊達の地」に 水土里の絆 復興の歩み』をテーマに全国から土地改良関係者約6,000名が参加し盛大に開催されました。

式典は、開催県である水土里ネットみやぎの伊藤会長の挨拶で始まり、全国水土里ネットの二階会長から主催者挨拶。続いて、村井宮城県知事から歓迎のことば。小里農林水産副大臣、小野寺衆議院議員及び全国水土里ネット会長会議顧問の進藤参議院議員から祝辞が述べられました。その後、土地改良事業功績者表彰が行われ、農林水産大臣表彰6名をはじめ、農村振興局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会長表彰46名が表彰されました。

続いて、村井宮城県知事から「宮城の農業農村復旧復興のあゆみ」、室本農村振興局長からは「未来を築く土地改良」と題して基調講演がありました。次に全国水土里ネット会長会議顧問の宮崎雅夫氏をコーディネーターに迎え、「東日本大震災における創造的復興への軌跡」の基調報告がありました。宮城県の優良地区事例紹介では、美里東部土地改良区の小田嶋総務課長から「青生地区の農業農村整備～高収益作物生産への挑戦～」、北上川沿岸土地改良区の武山事務長から「大川地区の復旧・復興の取り組み～壊滅的被害からの再生～」と題しそれぞれの取り組みに関する紹介がありました。その後大会宣言に移り、最後に、次期開催県の岐阜県が紹介され、盛会裡に閉会しました。

### (本県の受賞者)

- ・ 農村振興局長表彰 福岡町土地改良区 理事長 青木 紘 氏
- ・ 全土連会長表彰 常東用水土地改良区 理事長 奥村 隆 氏  
富山県土地改良事業団体連合会 理事



# 北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 農業農村整備事業に関する要請

平成31年度の概算決定に向けて、北陸四県土地改良事業団体連合会協議会(幹事県 新潟県)では北陸四県の各土連の会長、副会長、事務責任者が、平成30年11月13日・14日に東京都内にて、自

由民主党本部と各県選出国會議員、財務省にて財務大臣ほか幹部職員、農林水産省では農林水産大臣ほか幹部職員に対して農業農村整備事業当初予算増額の要請を行いました。

## 要請先 自由民主党、財務省、農林水産省、県選出国會議員

### 農業農村整備事業に関する要請書

日頃より北陸地域の農業農村整備事業の推進につきましては、格段のご支援ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

特に、平成29年度補正予算並びに平成30年度当初予算の確保につきましては、関係各位に一方ならぬご尽力を賜り、衷心より感謝申し上げます。

さて、農業・農村は、安全・安心な食料の安定供給はもとより、豊かな自然環境や生物多様性の保全など、多面的な機能の発揮を通じて国土を保全し、国民の暮らしを支える重要な役割を果たしてまいりました。

本年から新たな米政策が始まるなど、農業農村を取り巻く状況は大きな変革期を迎えています。こうしたなか、農家所得の向上を図るためには、高収益作物の導入や省力栽培の導入など営農面での工夫に加え、これらの土台となる農地の大区画化や汎用化による生産コストの縮減や、担い手への集積集約化がまだまだ必要です。

一方では、地域の農業を支える土地改良施設は、多くが標準耐用年数を超過し、老朽化による施設機能の低下や、突発事故による営農への影響、加えて近年多発する災害への備えも必要な状況であり、計画的な補修・更新が重要な課題となっています。

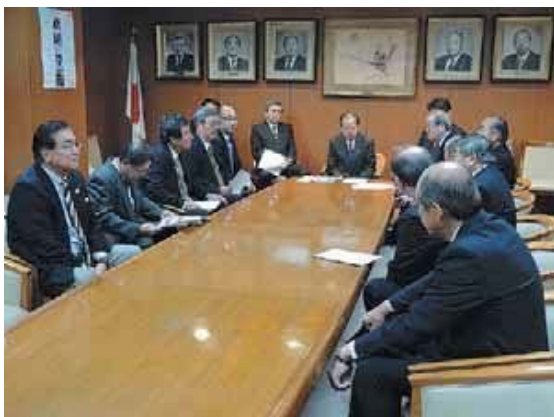
こうした状況の変化に対しては、土地改良区の運営基盤強化が必要であり、我々県土連においても、農業農村の維持発展のために果たしていくべき役割は、ますます重要性を増すものと認識しております。

これらの諸課題に対応するためには、農業農村整備事業の着実な推進が不可欠であります。

つきましては、農業農村整備事業の果たす役割をご理解いただき、平成31年度の予算編成に当たり、必要な予算措置を講じていただきますよう、特段のご配慮をお願い申し上げます。

平成30年11月13日

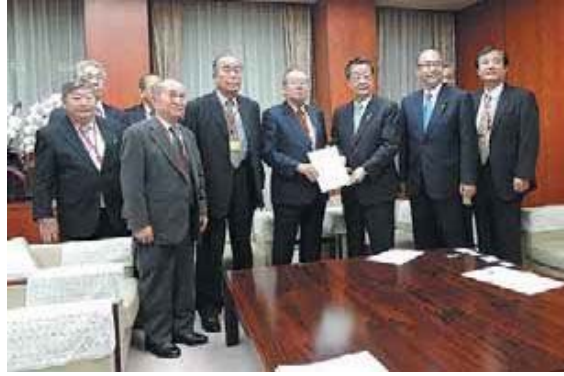
北陸四県土地改良事業団体連合会協議会



自由民主党 二階幹事長



麻生財務大臣



吉川農林水産大臣

## 平成30年度富山県建設優良工事(土地改良部門)の表彰

富山県が建設技術の向上と建設工事の適正な施工を行い農業農村整備事業の健全な発展を期するため、毎年実施している県内優良工事の平成30年度「知事賞」並びに「農林水産部長賞」の表彰式が、平成30年11月27日富山県民会館において工

事関係者を招き開催されました。

また、各農林振興センターの表彰式は、新川管内(12月12日)、富山管内(12月12日)、高岡管内(12月14日)、砺波管内(12月14日)で、それぞれ開催されました。

### 【知事賞】

受注者	分野	工事名	工事場所
竹田建設(株) 竹田大悟	農地整備	ほ場整備窪田地区第9工区ほ場整備工事	朝日町窪田
射水工業(株) 吉田寛之	農地整備	ほ場整備広上地区4号排水路第2工区工事	射水市西広上ほか
(株)丸泉 石崎 功	農地整備	ほ場整備石黒東部地区ほ場整備第1工区工事	南砺市松木外

### 【農林水産部長賞】

受注者	分野	工事名	工事場所
八倉巻建設 八倉巻仁志	農地整備	土地改良総合整備中加積南部地区6号排水路第1工区工事	滑川市赤浜
野村土建(株) 野村栄光	水利整備	小水力受託常西幹線地区用水路第3工区工事	富山市流杉
水新建設(株) 水野幸裕	農地整備	ほ場整備塩地区第4工区ほ場整備工事	富山市塩
大地中越ロジスティクス経常建設共同企業体 蓮川嘉信	農村地域防災減災	農地防災庄川左岸一期地区新又口分水工下流水路取付工事	高岡市醍醐
高田建設(株) 高田 実	農地整備	ほ場整備水戸田地区ほ場整備第15工区工事	射水市水戸田
(株)得能組 得能英紀	農村地域防災減災	農地防災庄川左岸二期地区苗加川水路第14工区工事	砺波市鷹栖
北陸ハイウェイ建設(株) 山本吉弘	農村地域防災減災	農地防災庄川左岸二期地区山王川用水路第12工区工事	砺波市杉木
(株)宮木建設 宮木一夫	水利整備	基幹水利施設庄西1期地区柳瀬口用水路第9工区工事	砺波市柳瀬
(株)山崎組 山崎 泉	水利整備	基幹水利施設庄西1期地区柳瀬口用水路第6工区工事	砺波市太田外

### 【新川農林振興センター所長賞】

賞区分	受注者	工事名	工事場所
県営 最優秀賞	(株)志村組	土地改良総合整備中加積南部地区6号排水路第2工区工事	滑川市柴
優秀賞	(株)窪田組	ほ場整備三ヶ地区K1-1号用水路ほか工事	魚津市川縁
団体 良賞	(有)高橋建設	農地耕作条件改善事業下樺地区用水路工事	魚津市下樺
良賞	前田組	地域用水環境整備事業浦山新発電所外構その1工事	入善町浦山新
良賞	(有)松倉建設	農地耕作条件改善事業水路改修工事(北山)	魚津市北山

### 【富山農林振興センター所長賞】

賞区分	受注者	工事名	工事場所
県営 最優秀賞	(株)大林組	基幹水利施設神通川右岸2期地区大沢野用水路第2工区工事	富山市笹津
優秀賞	(株)森井工務所	土地改良総合整備野口地区水路整備第1工区工事	立山町野口
団体 良賞	(株)海内組	県単独農業農村整備事業三熊地区第105号用水路工事	富山市三熊
良賞	(株)杉山組	県単独農業農村整備事業排水路改修工事	富山市根上

〔高岡農林振興センター所長賞〕

	賞区分	受注者	工 事 名	工事場所
県 営	最優秀賞	立山土建(株)	土地改良総合整備城飯久保地区用排水路第4工区工事	氷見市飯久保
	優秀賞	富士コンテクノ(株)	土地改良総合整備上屋・烏倉地区排水路第6工区工事	高岡市福岡町三日市
	良賞	(株)宮下組	土地改良総合整備石堤地区区画整理第1工区工事	高岡市石堤
	良賞	水機工業(株)	農地防災庄川左岸一期地区新又口分水工水門製作据付工事	高岡市醍醐
団 体 営	優秀賞	(株)府録組	農地耕作条件改善事業下川崎用水2号線送水管補修工事	小矢部市下川崎
	良賞	児島工業(株)	基盤整備促進事業伊勢領地区馬市川14号用水路第2工区工事	高岡市戸出伊勢領
	良賞	(株)久田組	四屋地内排水路改良工事	高岡市四屋

〔砺波農林振興センター所長賞〕

	賞区分	受注者	工 事 名	工事場所
県 営	最優秀賞	(株)北砺組	土地改良総合整備事業南般若地区水路整備第4工区工事	砺波市東石丸外
	良賞	(株)土居建設	土地改良総合整備事業川西地区水路整備第4工区工事	南砺市川西
	良賞	立野原建設(株)	土地改良総合整備事業大西地区水路整備第4工区工事	南砺市大西
団 体 営	優秀賞	安達建設(株)	県単独農業農村整備事業慈雲堂地区水路改修工事	南砺市蓑谷
	良賞	(株)藤井組	県単独農業農村整備事業山野地区山野29号排水路改修工事	南砺市高瀬
	良賞	富士機設工業(株)	地域用水環境整備事業三合新地区除塵機設備等製作据付工事	砺波市三合新

## 平成30年度 北陸ブロック 土地改良区体制強化事業 新規担当者研修

平成30年7月23日から27日にかけて、金沢市の金沢勤労者プラザにて、平成30年度北陸ブロック土地改良区体制強化事業 新規担当者研修(当番県:石川県土地改良事業団体連合会)が開催され、北陸四県の県、市町村、土地改良区及び県土連担当者約70名が参加しました。

研修は、荒井広保石川県土地改良事業団体連合会事務局長の開催挨拶のあと、北陸農政局、金沢地方法務局、石川県、国土地理院北陸地方測量部、石川県土地改良事業団体連合会より講師を招いて下記の内容で行われました。

日 時	研 修 内 容	講 師
7月23日	開会挨拶	石川県土地改良事業団体連合会 事務局長 荒井広保
	土地改良法の概要	北陸農政局農村振興部土地改良管理課 団体指導・資金係長 堀井光雄
	法改正について	北陸農政局農村振興部土地改良管理課 土地改良指導官 菅原安美智
7月24日	換地理論	北陸農政局農村振興部土地改良管理課 土地改良指導官 菅原安美智
	交換分合の概要	北陸農政局農村振興部土地改良管理課 農業集団化係長 難波大助
	相続登記について	金沢地方法務局不動産登記部門 登記官 船見正光
	不動産登記法及び土地改良登記令	金沢地方法務局不動産登記部門 表示登記専門官 桶 貞
7月25日	担い手への農地集積	北陸農政局経営・事業支援部農地政策推進課 課長補佐 笹本喜一郎
	道路法の概要	石川県土木部道路整備課 路政グループ 主事 中福絵美華
	河川法の概要	石川県土木部河川課 水政グループ 専門員 中島 満
	農地制度について	石川県農林水産部農業政策課 農地計画グループ 課長補佐 山本
	確定測量について	国土地理院 北陸地方測量部 測量課 調査係長 鎌苅裕紀
	換地設計と土地評価	石川県土地改良事業団体連合会 換地課 課長 菱村 忠
	代位登録申請の実務	石川県土地改良事業団体連合会 換地課 担当課長 高 明人
7月26日	代位登記申請の実務	石川県土地改良事業団体連合会 換地課 担当課長 高 明人
	換地計画書作成実務	石川県土地改良事業団体連合会 換地課 課長 菱村 忠
	現地研修	河北潟太陽光発電 河北潟干拓土地改良区 事務局長 鈴木時秀
7月27日	換地計画書作成実務	石川県土地改良事業団体連合会 換地課 課長 菱村 忠
	閉会挨拶	石川県土地改良事業団体連合会



換地計画書作成実務



河北潟太陽光発電

## 平成30年度換地関係異議紛争処理実務研修会(北陸ブロック)

平成30年11月6日～7日、福井市内において平成30年度換地関係異議紛争処理実務研修会(主催:全土連、開催県:福井県土連)が開催され、農政局・全土連・北陸4県の県・県土連の換地担当者31名が出席しました。

挨拶の後、北陸農政局の菅原指導官から「換地を取りまく状況について」と題して中央情勢について報告が行われました。引き続き新潟県・富山県の換地関係異議紛争処理事例に基づくケース・スタディーの検討会が行われました。テーマは、「大字総有の土地を、便宜、大字代表者10名で譲渡を受けたとする証文の残る土地について、町内会への名義変更方針を巡り1名の関係者と紛争になっている事例(そのⅡ)」、「事業参加資格者の同意を得ず事業認可した地区事例」について、活発な意見交換及び総括が行われました。

翌日は、石川県から「新たに設定した字名に対し出された審査請求と、地方自治法第260条による市町村の区域内の町、字の区域の設定、廃止手続きについて」説明があり検討会が行われました。最後に、中央換地センターから「異議紛争の未然防止に係る啓発普及資料の作成企画について」等の報告が行われ全日程を終えました。



## 土地改良区の基盤強化を目指す各種研修会の開催

### ①平成30年度富山県換地センター換地計画実務研修会

富山県換地センターでは、換地技術者育成を目的とした研修会を年2回実施しており、前期の研修会として、平成30年7月3日に富山県総合情報センターにて「平成30年度富山県換地センター換地計画実務研修会」が開催され、土地改良区、県、県土連の担当者、計75名が出席しました。研修会は、まず浦田・一郎換地士部会長の開会挨拶があった後、下記の内容にて研修を行いました。

講義内容	講師
① 相続登記の促進について	富山地方方法務局 登記部門 総務登記官 降籟さなえ 氏
② 所有者不明土地の利用の円滑化等に関する特別措置法について	総括表示登記専門官 大槻 和広 氏
③ 土地改良事業における筆界特定制度の活用について	統括登記官 権田 広光 氏
換地くん(～換地の流れ～)	富山県土地改良事業団体連合会 事業部指導計画課 主任 松井 俊浩氏



法務局からの講義



換地くん（～換地の流れ～）

## ②富山県構造改革推進ほ場整備研究会 先進地研修

富山県構造改革推進ほ場整備研究会（会長：定司俊憲福野町土地改良区理事長）では、平成30年11月1日（木）～2日（金）に新潟県中越方面の先進地研修を行い、会員ら26名が参加しました。

まず関川水系土地改良区にて、上越市農業再生協議会が行っている低コスト米生産産地育成支援事業として、ドローン空撮を活用した大区画ほ場での均平化システムやリモートセンシングによる施肥マップ作成など、低コスト化に向けた実証の取組みを紹介していただき、大区画ほ場での有効性やシステム導入の効果等について質疑が交わされました。

次に株式会社ふるさと未来では、水稲だけに頼らず園芸作物も導入し、通年での営農作業と安定した収益確保の取組みを視察しました。品質確保や合理化等は当然のことながら、販路の確保や商標登録、また営農サポートシステムなどICT技術の導入なども行われ、少しずつ若手の雇用や育成にも積極的に取組まれており、参加者からは多くの質問が寄せられました。

また農事組合法人一日市ひかり農産では大区画ほ場整備を契機に集落営農型の法人を設立し、品質の確保に努めながら販売促進活動も行い、魚沼産水稲としてブランド化に成功した状況を視察し、最後に魚沼市土地改良区では、幹線水路の頭首工にて施設の見学や土地改良区の取組み等について説明を受け、研修の全日程を終了しました。



## 式典 発電所の完成式・発電開始式

平成26～27年度に地域用水環境整備事業等で着手した下記地区において、小水力発電所の竣工式が下記のとおり行われました。

	式典年月日	地内	(kW)最大出力	売電開始	事業主体
中滝発電所 (中滝地区)	H30.10.14 (完成式)	富山市 大山上野	470	H30.10	常願寺川沿岸用土地改良区連合
舟子川用水発電所 (舟子川地区)	H30.11.6 (開所式)	黒部市 浦山	190	H30.11	黒部川左岸土地改良区



【中濁発電所】



【舟子川用水発電所】



## 情 報

### ◆富山県農業用水小水力利用推進協議会◆

◆技術力向上研修事業の一環として、小水力等発電会計及び土地改良区の複式簿記に係る会計運営技術者育成を図るため、全上連が開催する中央研修（東京都内）に当協議会から下記のとおり参加しました。

名称	月 日	研 修 内 容	参加人数
【技術者育成】	H30. 9/26～ 9/27	会計運営（複式簿記・会計）	4名

◆「発電施設見学会」を開催しましたので紹介します。

- 1) 日 時 平成30年11月8日（木）PM1:00～
- 2) 施設名
  - ・新 明 発電所（事業主体：庄西用水土地改良区, H30. 7月運用開始）  
説明者：森谷参事
  - ・湯谷川発電所（事業主体：(株)新日本コンサルタント, H31. 1月運用開始予定）  
説明者：升方発電事業室長
- 3) 参加者 土地改良区等、富山県、市町村の小水力発電担当職員 約50名



【新明発電所】



【湯谷川発電所】

### ◆富山県多面的機能推進協議会◆

富山県多面的推進協議会では多面的機能支払交付金の活動の活性化・継続性の確保を目的としており、平成30年11月21日に富山産業展示館（テクノホール）で開催された「多面的機能支払推進研修会」では、活動組織、関係機関等から約1,100人が参加しました。

研修会では福井県の取組状況、福井県における活動組織の広域化による地域コミュニティの形成と農村振興、楽なアゼ管理と農村環境保全のために「こんなカバープランツ、こんな植え方」についてなどの講義を受けました。また、同時開催したパネル・ブース展示ではコンクリート2次製品、補修材や防草シートなどの関係資材メーカーの技術紹介が行われ、有意義な研修会となりました。





◆非補助農業基盤整備資金のご案内◆

1. 非補助農業基盤整備資金とは

土地改良区等が国からの補助を受けないで、かんがい排水やほ場整備、客土などの事業に取り組み、農業生産基盤整備・保全の推進を図る場合、日本政策金融公庫等が農家負担の軽減を目的に、土地改良区等に対し低利で融資する資金です。国の補助対象でない県又は市町村単独による補助事業についても、融資の対象となります。

2. 対象となる事業種類・内容

かんがい排水、畑地かんがい、ほ場整備、暗渠排水、客土、農道、索道(軌道等運搬施設を含む)、畦畔整備、農地造成、防災・農地保全、農業集落排水(農村下水道)、発電施設。

維持管理計画書作成に係る調査費、土地改良区事務所の新增築、事務機器や複式簿記導入に係るシステム、車両など

3. 融資条件

●貸付対象者

土地改良区、土地改良区連合(事業主体となる場合に限る)、農業協同組合、農業協同組合連合会、農業を営む方、農業振興法人

●償還期間 25年以内(うち据置期間10年以内)

【農業農村整備資金利率】

区 分		H30. 11. 19現在
補 助 事 業	県 営	0.55 %
	団 体 営	0.40 %
非 補 助 事 業	一 般	0.40 %

〈お問い合わせ先〉

- ・富山県農林水産部農村整備課換地業務係 076-444-3375
- ・北陸農政局農村振興部土地改良管理課 076-263-2161 (代表)
- ・富山県土地改良事業団体連合会事業部管理指導課 076-424-3380

〈融資担当機関〉

- ・日本政策金融公庫富山支店 076-441-8411
- ・農林中央金庫富山支店 076-445-2508 (公庫受託課)

お 知 ら せ

今後の主な行事予定 (平成31年1月～)

月 日	会 議 と 行 事	場 所	参 加 対 象	備 考
1月10日	ため池防災支援システムの講習会	県 土 連	県・市・町	県
2月5日	換地計画実務者研修会	富山県総合情報センター	土地改良区等	主催
2月8日	災害復旧技術向上のための講習会	県 土 連	県・市・町等	県
2月11日 ～14日	とやまの農山村写真展 表彰式・展示	富山県民会館(ギャラリーA)	一般	県
2月25日	富山県担い手育成ほ場整備研修会	新川文化ホール	土地改良区・ 営農関係者等	ほ研会
3月15日	本会 第61回通常総会	ホテルグランテラス富山	会員・来賓等	主催

(注) 本案はあくまでも予定であり、別途詳細案内等を確認のうえ参加ください。

平成30年度「とやま水土里賞(知事賞)」受賞者の紹介

■  
団  
体  
の  
部  
■



打尾谷ため池管理委員会  
(南砺市)

打尾谷ため池  
(ため池堤体の草刈状況)

■  
個  
人  
の  
部  
■



室 正道 氏  
(入善町)

入善用排水路及び青島用排水路  
(水門の操作状況)



大場 忠夫 氏  
(富山市)

黒崎1号取水門(一級河川土川)  
(取水門でのゴミ撤去作業状況)



土田 光秋 氏  
(南砺市)

赤祖父ため池  
(水門の操作状況)



農業農村整備事業等の調査・測量設計等業務に関する  
ご相談は、下記までお問い合わせください。

富山県土地改良事業団体連合会

〒939-8214 富山市黒崎17番地  
TEL076-424-3300 FAX076-424-3332  
<http://www.tym-midori.net/tomidoren>

